進呈 · 犯罪古文書集成 & 無料音声年代記 5篇

記録保管所秘録：ラ・レニエ、フランソワ・ピコー、欧州の伝説的二〇獄、そして『十三人の晩餐』

弊社の小説ならびに夜読の年代記を支える、真正なる歴史資料群——ジャック・プーシェの公文書より甦る真実のモンテ・クリスト伯、フランソワ・ピコーの克明なる年譜（1807–1815年）。火刑裁判所（1679年）の深奥なる秘儀、欧州の伝説的二十牢獄地誌、そして裁判記録保管所に眠る五十四の小話集成（1775–1795年）。

I. 事件古記録室を支える五つの歴史的礎石

書誌典拠／叢書名	時代的背景	収載史料・叙述録	閲覧窓口
『フランソワ・ピコーの検証』（真実のモンテ・クリスト伯）	ニーム、フェネストレル要塞、ミラノ、パリ（1807–1815年）	靴職人フランソワ・ピコーの真実の生涯。ルピアン、ソラリ、ショバールらの讒言により投獄され、アルプス山中のフェネストレル要塞にてトッリ神父とともに七年の苦難を耐え忍ぶ。やがてミラノの大秘宝を受け継ぎ、僧侶バルディーニと偽りて復讐の仮面を被るまで。	要約版（全十話）を読む →
『欧州の伝説的二十牢獄』	パリ、ロンドン、ヴェネツィア、ミラノ、ウィーン（14–19世紀）	バスティーユ、コンシェルジュリー、グラン・シャトレ、ラ・フォルス、ビセートル、サント＝ペラジー、フェネストレル、ヴェネツィアの鉛屋根の監獄、ロンドン塔、ニューゲート、シュピールベルク——夜を深める完全なる二十の物語。	二十の牢獄を遍歴する →
『記録保管所の小話五十四選』（1775–1795年）	パリ高等法院、シャトレ裁判所、革命裁判所	法廷の息遣いを写し取った、真正なる五十四編の司法ミニアチュール——豪奢なリボンを纏う詐欺師、場末の錬金術師、偽の相続人、そして断頭台の露と消える直前に認めた最後の手紙。	五十四の小話を読む →
『警察秘録集成』（全三十四巻）	パリ（1667–1789年）・ニコラ・ド・ラ・レニエ、サルティーヌ、ルノワール	火刑裁判所、毒殺事件、奇跡の法廷、そして初代パリ警視総監が私的に書き遺した覚書帳の数々。	叢書を繙く →
『十三人の晩餐 —— 毒参人参の環』（全二十一巻）	ニューヨーク（デルモニコ）、パリ（19世紀末）	亡命貴族たる判事エヴァリスト・ド・ヴァルヴィルが、十二人の客人を招き開くロシア式豪奢な晩餐会。供される至高の皿ごとに、裁かれざる罪の真相が白日の下に晒される。	全二十一巻を閲覧する →

II. フランソワ・ピコー事件対照年譜（1807–1815年）

- **1807年2月（パリ、サント＝オポルトゥーヌ広場）：** 資産家の娘マルグリット・ヴィグルーとの婚礼を五日後に控えたニームの靴職人フランソワ・ピコーは、嫉妬に狂ったマチュー・ルピアンの酒場にて、ルピアン、アントワーヌ・ソラリ、ショバールらの密告により、英国の王党派間諜の濡れ衣を着せられる。
- **1807–1814年（ピエモンテ、フェネストレル要塞）：** 高山に聳える要塞での七年にわたる完全な幽閉。ピコーは隣獄に囚われていたミラノの聖職者トッリ神父を密かに介抱し、その臨終に際してミラノの隠し財宝とアムステルダムのダイヤモンドの遺産を譲り受ける。
- **1814年4月 – 1815年2月（ミラノおよびパリ）：** ナポレオン失脚に伴い解放されたピコーは、ミラノにて遺産を回収。僧侶バルディーニ、次いでジョゼフ・リュッシェの変名を使い分けパリへ帰還する。ポン・デザールにてショバールが刺殺され、ペリグーにてソラリは毒殺、ルピアンの家盤は破滅ののち放火に包まれる。そして1828年、アントワーヌ・アリュの手により、戦慄の全貌が警視総監へ告白されるに至る。

III. 直ちに試聴可能：無料音声年代記 5篇（MP3）

本資料集成の読解を補興すべく、「ラ・ヴェイエ・スタジオ」の試聴の間への扉が開かれております。母語の朗読にて吹き込まれた五大犯罪劇の迫真の記録（DRMフリー・高音質MP3）を即座にご清聴いただき、事件古記録室に収蔵された一千三点に及ぶ調書の世界を心ゆくまで逍遥されたし。